



リチャード・H・カーモナ博士 (MD、MPH、FACS)
PFCD (慢性疾患と闘うためのパートナーシップ) 会長
キャニオン・ランチ・インスティテュート 理事長
第17代米国医務総監 (2002~2006)



リチャード・H・カーモナ博士は、ニューヨーク市の貧しい家庭に生まれた。幼少の頃はホームレス、飢餓、医療格差など身を持って体験している。このころの経験が、文化、健康、教育、経済状態の間の関連性に対するカーモナ博士の意識を大きく高め、将来を方向付けることになった。

カーモナ博士は、高校中退後、1967年に米国陸軍に入隊した。軍務を勤めるかたわら高校卒業資格を取得し、その後、特殊部隊としてベトナム戦争に従軍して勲章を授与されている。退役後は、退役軍人のための自由入学プログラムを通じてニューヨーク市立大学ブロンクスコミュニティカレッジに学び、準学士号を取得した。その後、カリフォルニア大学サンフランシスコ校に学び、理学士号(1977)と医学士号(1979)を取得している。カーモナ博士は、カリフォルニア大医学部を首席で卒業し、名誉ある「金の柄の杖」を授与されている。

医学部卒業後、当初は一般外科および血管外科としての訓練を受けたカーモナ博士は、国立衛生研究所支援による外傷、火傷、救命救急医療のフェローシップを修了した。同博士は、米国外科学会フェローである。ツーソン・メディカルセンター(アリゾナ州)とアリゾナ大学の両方からの誘いを受けたカーモナ博士は、アリゾナ州で最初の外傷医療システムを立ち上げ、指揮した。その他にもアリゾナ州南部救命救急医療システム委員長、アリゾナ大学外科、公衆衛生、家庭地域医療学教授、ピマ郡保安官事務所の外科医と保安官代理を歴任している。



公衆衛生の修士号取得のため働きながら大学院に通ったカーモナ博士にとって、公衆衛生は第二のキャリアとなった。博士の公衆衛生への関心は、自らが診療する患者の疾患や負傷の多くが完全に予防可能であることに気づいたことに端を発している。

カーモナ博士は、2002年、アメリカ合衆国ジョージ・W・ブッシュ大統領の指名と上院の満場一致の承認を受け、第17代米国医務総監に就任した。ブッシュ大統領の指名理由は、カーモナ博士の公衆衛生、臨床科学、医療管理における広範かつ豊富な経験と見識、そして生活の質と量を改善しながら公衆衛生の向上と医療費を抑制する手段としての予防医療への献身の姿勢であった。

(2008年9月現在)